

事例 34 シマフクロウの生息に配慮した森林施業

(北海道森林管理局)



- 北海道内(希少種保護のため生息地が特定されないよう詳細を記載していない)
- 飛翔空間の確保等に配慮した森林整備



- 北海道札幌市^{さっぽろ}
- シマフクロウシンポジウムの様子
(令和6(2024)年10月)

シマフクロウは北海道に生息する日本最大のフクロウで、かつては道内に1,000羽以上生息していたといわれていますが、明治以降の生息環境の変化等により個体数が激減してしまいました。

北海道森林管理局では、シマフクロウの生息域を保全し繁殖活動の保護を図るために、関係機関や有識者と連携し、生息環境に配慮した森林施業等に取り組んでいます。

具体的な取組として、生息域の国有林をシマフクロウ希少個体群保護林として保護するとともに、営巣地となる巣箱の設置、繁殖時期に配慮した施業実施期間の設定、餌となる魚類の移動域拡大のための治山ダム改良などを実施しました。シマフクロウは、一時期36組まで減少していたつがいが100組程度に増加しています。

同局では、令和6(2024)年10月に「シマフクロウシンポジウム」を開催しました。当日は、北海道開発局、環境省、シマフクロウ保護の専門家等を含めた約200名が参加し、これまで国有林で30年間にわたり取り組んできた保全活動を報告するとともに、これまでの取組の検証や意見交換を行いました。参加者からは、「長年にわたり行政機関と研究者が連携して取り組んでいることを知り有意義だった」などの反響がありました。

引き続き、シマフクロウの生息に配慮した森林施業に取り組んでいきます。